

創建

そうこん 卒業記念号

2003・3・25 VOL.37 NO.2 (通巻110号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

巻頭言／黒田 浩司・1

卒業生に贈る言葉・2～4

卒業式表彰者等・5

博士学位論文・6～7

修士学位論文／学術論文・8

学術研究報告・9～10

教室ニュース・11

桜門建築会創立80周年記念事業・12

1995年1月17日に発生し多大な被害をもたらした兵庫県南部地震から8年が経過した。当時小学校高学年生から中学生であった学生諸君は、記憶から遠ざかりつつあるかと思われる。よく天災には忘れた時分に襲われると云われている。

福島県内で被害の記録が残されている地震は、震源を会津地方とするものと福島県沖とするものが有り福島・郡山・白河市を結ぶ中通りには無い。会津地方では、1611年9月27日にM（マグニチュード）6.9で若松城下およびその近郊において死者3,700余名建物2万余棟の大被害を出した地震、1821年12月13日(M6.1)に大沼郡大石組（金山町川口付近）の狭い範囲で建物の大破130棟破損300棟に死者若干名を出した地震、1943年9月10日（M6.2）の田島地震（あまり被害は出なかった）等があり100年から200年の間隔で生じている。

太平洋側では1677年11月5日にM8の地震が発生し磐城から房総かけて津波が生じ県内では小名浜から四倉で死・不明者130余名を出した地震、1938年5月23日に塩屋崎沖で発生したM7.1の地震では小名浜付近の沿岸と福島・郡山・白河を結ぶ中通りおよび郡山・会津若松を結ぶ地帯で250棟の建物被害を出した。また、同じ年の11月5日にはM7.7の福島県東方沖地震が生じた。この地震はM7前後の余震が11月末まで多発し、死者1名住・非住家の全半壊90余棟の被害を出した。以来M7クラス以上の地震は65年間発生していない。

仙台市を中心に大きな被害をもたらした宮城県沖地震から25年が過ぎようとしている。政府の地震調査研究推進本部発表によると宮城県沖地震は平均37年の間隔で繰り返して発生していると評価し、地震観測の強化方針が出されたとのことである。同一地点での大地震の再現期間は100年、数100年、あるいは、数1000年

というオーダーであるがいつ何処で発生するか現時点での予測はできない。

ところで、教室で震度2、3程度の地震を経験されたと思う。その時どの方向に揺れたか憶えていますか。教室棟は東西方向に教室が並び長く、南北は教室と廊下の2スパンで短く長方形をしたRC又はSRC3階の建物で、現耐震設計法（1981年以降）以前の設計法によって設計されたものである。たとえば、南北方向に揺れたとする、なぜ南北方向に揺れたかを考えてみよう。教室と教室との間には壁がある。この壁は耐震壁なのか、木造等の間切仕壁かによって異なり、耐震壁が多ければ揺れは少なくなるだろう。一方、東西方向は南・北面とも窓、教室と廊下の仕切りに

合部不良／不適切な筋かいの設置と筋かい端部接合不良／木材の腐食、蟻害

○RC造：1971年以前の建物で柱のせん断破壊／1981年以前の建物で壁が偏っているもの、中間層の強度不足、ピロティ形式など剛性や強度のバランス悪いもの。

○S造：柱脚部の強度等の不足／柱・はり接合部、継手等の設計又は施工の不備による耐力不足（溶接部など）

1995年1月に発生した兵庫県南部地震では多数の建物に被害が生じ、多くの貴重な人命が失われた。この地震では、現耐震基準を満たさない1981年以前に建設された建築物に特に大きな被害がみられた。旧基準で建てられた建築物に対して「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が同年12月25日施行された。福島県では、即対応し翌年から耐震診断が行なわれ、小・中学校建築物等公共的な建物で、対象建築物の約7割が診断を終了し改修も始まっている。ただし、私有の建築物については、ほとんど行なわれていない。

いつ大地震に襲われるかわからない。そこで、わが家の耐震診断と対策をやろう。下記に木造住宅を主としたリーフレットや小冊子を紹介するので、わが家が地震に対して安全かどうか確認してみよう。（教授）

・わが家の耐震診断と補強方法

（財）日本建築防災協会・（財）日本建築士会連合会

・わが家の耐震 日本建築学会編

・わが家の地震対策 日本建築学会編

・あなたの建物は地震に対して安全ですか

福島県土木部都市局建築住宅課

・地震にそなえて（わが家の耐震知識）

（財）日本建築防災協会・（財）日本建築士会連合会

・あなたの建物は安全ですか

（財）日本建築防災協会

※参考文献；

日本被害地震総覧

宇佐美龍夫 著 東京大学出版会

理科年表 榎丸善

わが家は安全か

黒田 浩 司

は出入口、窓などが有る場合が多く耐震壁は無いのに揺れが小さいのは何故か。南・北面の窓には腰壁、下げ壁が付いていて柱の変形する部分が短い（短柱、極短柱）。耐震診断を行なうと東西方向の方が耐震性が少ないという結果となるのがほとんどである。耐震性の有無は骨組の耐力（曲げ、せん断、軸方向力）だけでなく、それに伴う変形能力（靱性）にも関係する。揺れたからといって耐震性が小さいと限らない。骨組を構成している構造材料によって異なる。材料の性質、構造材の性質、応力の伝達機構を熟思して耐震性の有無を考える必要がある。

地震被害にあった建物の主な被害状況を示す。

○木造住宅；耐力壁不足／バランスの悪い耐力壁の配置／柱・土台接

祝 卒業生に贈る言葉

卒業を記念して先生方から心を込めたメッセージを贈ります

■ 浅里 和茂 助教授

みなさん、卒業おめでとう。

卒業を迎えるにあたって、みなさんをお願いしたいことは、ただ、ひとつだけです。それは、友人を大切にしてほしいということ。大学生活の4年間で多くの友人ができたと思います。特にこの一年間は、卒業研究や就職に関連して今まで以上に濃密な付き合いをしたのではないのでしょうか。どうかこの友人たちをずっと大切にしてください。仕事を始めると、今までのように会うことはできなくなりますし、電話やメールでさえ連絡をとることが難しいときがあります。それでも一年に一度でもいいから連絡したり、会って話をしたりしてほしいと思います。それもできなければ、せめて年賀状だけでも交換してほしいと思います。このような友人たちは、これからの長い人生でかけがえのない人たちばかりなのです。そして、それは卒業して年を経るごとに実感できると思います。

■ 有賀 保二 助教授

“気”と“力”

工学部のキャンパスで、輝く青春の4年間をお過ごしされ、目度く卒業される皆さんは、入学された当初の頃を思い起こせば想像できないほど多種多様な経験を、今日の良き日を迎え感無量のことと思います。御卒業おめでとうございます。

皆さんは、これから各自の目標に向かって社会へ旅立つわけですが、慶びと不安の交差する中で期待に胸を膨らませ、経済不況の社会に飛び出すのです。これから本当の勉強だと思います。これから自分の必要に応じた実社会で勉強することによって初めて日本大学工学部の建築学科を卒業したと言える人間になり、本当の実力が身につくのです。卒業される皆さんに“気”と“力”と言う文字を思い起こして下さい。気は気力、元気、気丈、気骨、勇氣など…力は努力、協力、力量、力闘、体力、財力など…色々に繋がります。この気と力を胸において頑張ってください。卒業生の皆様の御活躍をお祈り致します。

■ 市岡 綾子 助手

ご卒業おめでとうございます。大学生活への大いなる期待を胸に美しい北桜のアーチをくぐってからの日々を思い起こされていることと存じます。日本大学で最北のキャンパス日大工学部といえば「北桜」・・・北桜には、厳しい冬の間待ち続けた陽気な春の訪れを

知らせ、共に祝うという北桜ならではの役割があります。北桜には常に必要とし待っている人々がいるのです。その期待に応えるべく、美しい花を毎年必ず咲かせています。世間の流れよりは若干遅いけれども、着実に自らのペースで歩み、役目を果たし、人々の心の支えとなる。このような北桜の下で充実した大学生活を送った皆さん、周囲のペースに巻き込まれることなくどうぞ自信を持って歩んで下さい。もし足元に視線を落とすようなことが起きたら、北桜のたくましい幹を思い出して下さい。そして空を見上げましょう。きっと必ず太陽、雲、月、星等が語りかけてくれるはずです。「あなたはオンリーワン」と。

■ 岩崎 博 教授

ONE FOR ALL / ALL FOR ONE

標題は、昨夏、ラグビー部のM君から聞いた話です。この競技では、「一人は皆のために、皆は一人のために」の動機づけもと、ノーサイドまで熱く戦い、栄光のゴールを目指すそうです。ラグビーに限らず私たちの社会生活に広く当てはまる話だと思いました。御承知の通り、「人」の字画は、一方が他方を支えています。先の大学選手権でも個人的な身体能力に少々劣るチームでも、動機づけの趣旨を理解し、アシストの緊密なチームは常に優位に立っていたようです。

さて、本日の卒業は、もちろん、皆さんの努力の賜物ですが、今日まで諸君を支えてくれた仲間や、関係の方々との絆を再確認する機会でもあります。また、何はともあれ、一刻も早く、受験から卒業まで、物心両面にわたり気配りしてくれた両親や身内の方々に感謝の気持ちを伝えて下さい。これが終わりの新たな始まりです。

これからのビジネス生活で順境、逆境は誰しも等しく巡ってきますが、ラグビーでは前に進むには、パスは後ろに出すことになっています。好不調時を問わず、絶えざる自己研鑽は当然として、たまには能力の社会還元をとおして、自分の周りや公益性にも目を向け、アシストし合う強固な人間関係をたくさん構築し、ピンチの下に必ず芽生えているチャンスを育みながら、めげず、諸君それぞれが目指すゴールに向け邁進して下さい。

■ 大濱 嘉彦 教授

社会人となれば、健康も実力の一つであることをよく認識し、正しい価値観を持ち、何が本物であるかを見極める力を養うように心掛けてほしい。技術者とし

て生きるためには、創造力、好奇心及び情報制御能力と根性のバランスをとるように努力し、夢を追い、大いに飛躍して頂きたい。

■ 狩野 勝重 教授

永いようで短かった大学4年間。恐らく、これまで「大学生活をもっとエンジョイしたい」というような心境ではなかったであろうか。しかし、実社会に飛び立って数ヶ月後、「大学時代にもっと勉強しておけばよかった」という言葉を多くの卒業生から耳にする。大学の研究室という閉ざされた環境にあって僅かな情報だけを頼りに組み立てられた世界は、大学の講義を通じて育んできた様々な情報を、互いに連結することなしに諸君を社会に送り出してしまう。そのような諸君を待ち受けていた社会が要求するものは、あらゆる情報をシャッフルしたハイパーコンプレックスであり、それをマネジメントする能力と責任である。即ち、求められているものは総合性と関係性である。諸君は勉強しなかった訳ではなく、その学んだ内容が一体のものとして集約されなかっただけである。その捉え方の差異が「不勉強だった」という言葉に代弁させられているように思う。建築に携わる者にとって、あらゆる立場で説明責任が求められるが、それだけに遣り甲斐も生まれてくる。そのことを認識して、卒業生諸君、明日に向かって意を新たに。

■ 倉田 光春 教授

卒業おめでとう！
ばくは、倉田！
勿体無いけど〜！後輩だから一言！
「工学部を卒業した己を信じ
直感に従い
夢や希望の実現に向けて
感情に負けずに
凶を捨て吉へ
成功するための決断をしよう！
その機会を逃がすな！
チャンスを最大限に利用しろ。
明るい未来が君たちを必ず待っている。」
う〜ん！ちょっと硬かったかな！
でも、いい言葉だ。
君たち、運がいいよ、きっと！

■ 佐藤 平 教授

百尺竿頭一步を進む

中国の「招賢泰師の書・伝灯録」の一節に百尺竿頭一步を進むとある。意味は百尺の竿頭に一步達した者

は、既に至り尽くしたものであるが、さらに工夫を加えるともっと向上するという事である。先日大学時代の友人加藤幸三君（前梓設計事務所社長）から手紙を頂いた。内容は設計事務所の社長を後継者に譲り、本人は新しく「株式会社ティ・エス・エス」と言う名称の総合コンサルタント会社を組織すると言う事である。スタッフもこれから公募すると言う事、これから先々大変であろう。でも彼の持って生まれた生真面目さと友人の多かった事を思い出すとキット成功するであろう。

正に彼は前の事務所で百尺竿頭に達したのであるが、更に新しい工夫を加えて新しい会社で一步向上したいと言うことである。

殆どの諸君は間もなく社会人になる。そしてそれぞれの会社等で仕事につくはずである。その時その職場の仕事がどんな仕事であっても「招賢泰師」の言う「百尺竿頭一步を進む」を常に忘れずに新しい人生を一步迷わずに歩んで欲しい。

■ 千葉 正裕 助教授

ご卒業おめでとうございます。

郡山での学生生活は、充実していましたか？学生生活にも様々な苦労や努力があったことでしょう。しかし、みなさんは、これから夢や希望に胸をふくらませ、また「社会人として、ちゃんとやっていけるのだろうか？」とか「人間関係は大丈夫だろうか？」などの不安も入り混じりながら、それぞれ自分の道を歩んで行かれることと思います。送り出す側としては、うれしいようで、少し淋しい気もします。これからは仕事に追われ、自由になる時間も少なくなると思いますが、自分を見失うことなくがんばって下さい。もし、仕事や人生に行き詰まった時は、大学時代の友人に逢ったり、また恩師に逢いに行ってください。きっと、楽しかった学生生活のことが思い出され、初心に戻ることができるでしょう。最後に、みなさんのより一層のご活躍を祈念致しまして、私の贈る言葉とさせていただきます。

■ 出村 克宣 教授

卒業おめでとうございます。

工学部で学んだ日々を振り返り、いま、どのようなことを思いだすでしょうか。卒業するこの時期になると、大学生活が4年であったにも関わらず、建築学科の卒業生はやはり、建築の雰囲気や漂わせているものだと考えています。しかし、建築学が奥深いことはみなさんが一番よく知っていることでしょう。これからも、日々、研鑽をつんでいただきたいと思います。さて、みなさんを含めて、工学部建築学科卒業生は1万1千人を超えました。そして、日本大学理工系学部の建築系卒業生で組織する桜門建築会の会員数は、現在、6

万余名に上ります。これから社会にでても、みなさんには、このような多くの同窓がいることを忘れないで下さい。このような歴史ある日本大学の建築学科を卒業したことに誇りを持って、社会に大いに役立つ建築家・建築技術者として活躍されることを祈念いたします。

■ 野内 英治 助手

卒業生のみなさま！ご卒業おめでとうございます。在校生のみなさん！もうしばらく愉しみなさい。僕は日本大学を三回（学部一回と大学院二回）も卒業した卒業のベテランだが、社会人としての生き方を伝えられるほど年をとっていないので、二三の読み物を紹介して送る言葉に代えさせてほしい。まずは、大いに笑ってもらおう。赤瀬川原平著、「新解さんの謎」（文春文庫）。活字を読んで腹が痛くなるほど笑ったのは後にも先にもこの本だけである。仕事に疲れたときに読んでくれ。世の中を広く知る必要もあるだろう。珈琲には塩を入れるのだ。辺見庸著、「もの食う人びと」（角川文庫）。孤独を感じたら、新田次郎著、「孤高の人」あるいは沢木耕太郎著、「深夜特急」（ともに新潮文庫）が良いかもしれない。最後に、勢古浩爾著、「まれに見るバカ」（洋泉社）。万が一勤め先の上司、同僚または部下が真性のバカだったとき、この本が慰めになるかもしれないヨ。頑張れ！

■ 濱田 幸雄 助教授

ご卒業おめでとうございます。

皆さんはドップラー効果という言葉をご存知でしょうか。音源と聞き手の相対速度により、音の周波数が変化する現象です。この現象は、皆さんと会社あるいは人との関係にも当てはめることができます。体調が悪ければ人の言葉も不快に響くでしょうし、生活パターンを変えれば職場が違って見えてくることもあるでしょう。体を大切に、上手に気分転換をしてご活躍ください。

■ 土方 吉雄 助教授

世界は今、科学革命時代から情報革命時代への大転換期にあり、建築に対する社会ニーズも多様化し、建築技術もますます進歩しています。今こそ、若き皆さんの知性、感性そしてエネルギーが求められています。期待しています。

■ 松井 壽則 助教授

ご卒業、おめでとうございます。

正門からの桜並木に迎えられ、大いなる期待に胸膨らませ入学し、学年を重ねる毎に多くの知識と生涯の友を得た大学生活であったと思います。そして今、木々の芽吹きと共に、皆さんは新たな道へと進まれます。

今世情は、兆しはあるものの中々好転しない経済状況、並びに建設業界に吹き荒れる逆風を受け、大変厳しい時代となっております。このような世情を皆さんの熱き想いと行動力で乗り越え、願わくば変革して頂きたいと思います。期待しております。

■ 若井 正一 教授

人生には様々な環境移行の場面がありますが、その中でも卒業は大きな節目です。厳しい経済情勢と国際緊張の荒波に向かって出航する皆さんを見送ることは親心のようにとても不安な気持ですが、どうぞ大きな希望と信念を持って進んでください。

私から皆さんに贈る言葉は、『他人を思いやり、自らを戒める気持ちを忘れない』ということです。それから私の名前でもある「若い」という字は、「苦しい」という字に似ていますが、これからの人生では、「若きウェルテル」のように悩み苦しむことも少なくないことでしょう。しかし、その後には必ずや果報が訪れることを信じて、荒波を乗り越えて下さい。

素晴らしい人生の出会いが、沢山ありますことを心から祈念いたします。

■ 薄井三枝子 学科センター（教室事務）

御卒業おめでとうございます。

後を振り返ることがあっても後退せず、少しでも前進して行って下さい。ご活躍をお祈り致します。

ご卒業・修了おめでとうございます

建築学科教職員一同

教授	岩崎 博	助教授	浅里 和茂
同上	大濱 嘉彦	同上	有賀 保二
同上	狩野 勝重	同上	千葉 正裕
同上	倉田 光春	同上	濱田 幸雄
同上	黒田 浩司	同上	土方 吉雄
同上	佐藤 平	同上	松井 寿則
同上	出村 克宣	同上	三浦 金作
同上	若井 正一		
専任講師	八町 雅康	助手	市岡 綾子
同上	パークサンジェイ	同上	野内 英治
同上	渡澤 正典		

学科センター （教室事務） 薄井三枝子

*平成15年3月1日現在、非常勤・兼任を除く

平成14年度 卒業式・修了式における表彰者

平成15年 3月25日

- 日本大学「総長賞」「優等賞」 *学部全卒業生の中から特に成績優秀者に授与される賞
 ・総長賞 受賞者 竹澤 八千代、 ・優等賞 受賞者 田村 悦子, 小柳 実
- 日本大学工学部「優秀賞」(部科校長賞) *建築学科の受賞対象者を抜粋
 ・学術文化部門 (個人) 受賞者:伊藤 隆
 受賞理由: JIA東北建築学生賞において優秀賞を受賞 (詳細下図)
 ・体育部門 (個人) 受賞者:安孫子 由佳
 受賞理由: 東北学生女子柔道選手権などでの活躍に対して
 ・体育部門 (個人) 受賞者:小池 龍太
 受賞理由: 東北地区大学ボクシング選手権などでの活躍に対して
- 「斉藤賞」,「北桜賞」 *大学院修了者の修士論文から選考の上, 優秀論文に授与される賞
 ・斉藤賞 「街路空間の探索歩行時の注視に関する研究」 受賞者 佐野 浩史
 ・北桜賞 「円形鋼管材の純曲げによる局部座屈解析法に関する研究」 受賞者 渋川恵里奈
- 「桜建賞」 *桜門建築会の顕彰制度にもとづいて選考の上, 授与される賞
 ・卒業設計 「Co-prosperity passとstayが混在する空間」 受賞者 北村 大作
 ・卒業論文 「高強度材料を用いたRC造柱・はり接合部の2次元有限要素解析」
 受賞者 赤羽司保美, 秋山和仁
 ・卒業論文 「土壁のタバコ煙吸着・放散特性, スギとガーネット混合土壁及びしっくい内装室内における各空気質問の総合考察」 受賞者 甚野 光伸
 ・卒業論文 「浴室からの固体伝搬音測定用加振源の検討」 受賞者 大塚 裕也, 鈴木 茂人, 玉水 大介, 藤原 俊和
 ・卒業論文 「ひとにやさしいまちづくりに関する研究」 受賞者 川口 晋平

JIA東北建築学生賞で 優秀賞を受賞

日本建築家協会東北支部主催のJIA東北建築学生賞において, 本学科4年生の伊藤 隆君(若井研)の設計作品は, 東北大学など全15校から推薦された39作品の中から優秀賞に選定された。(表彰: 2002年11月24日)

応募作品のタイトルは, 「ornament shop of the flower」で, 下記にその図面を掲載する。



入賞作品

新任の先生

非常勤講師 佐久間宏一

担当科目: 学部・建築設計演習Ⅱ



郡山市出身, 安積高校を経て1979年に本学部卒業です。高校に入るまでは真面目な子でしたが, それ以後は大変な落第生でして, 今こうして講師のお誘いを受けるとは時間の経過を改めて感じています。学生時代にサボっていた分, 社会勉強はたっぷりとしなくてはなりませんでした。アメリカでの放浪(人はそう呼びます)を経て25才で市内に独立したのですから, 社会や建築のことや何もかも分かるはずがありません。当時はバブル経済前(地方において)でしたから食うにも事欠く有様でしたが, その分仕事の意味を考えるに十分でした。約10年後に法人化し, 個人から皆で考え行動するという方向へ, 3年前からは, ものづくりという原点に戻りたいという考えから建設業の許可を取り, 住宅に限って施工まで行っています。最近になってようやく自分でも満足できる建築が出来るようになりました。

そういった20年間で教えたり伝えたりすることは, 大変な誇りですが, 学生諸君と共に居られる時間を共有し, 教える, 教わるという意識ではなく, 共に学ぶという考えで授業に臨みたいと思っています。建築は, 創造と誠意というポジティブで純粋な思考力を発揮できる数少ない仕事に思えます。この機会に自らも建築を楽しむ, 再考したいと思っています。

URL <http://www.airco.jp>

平成14年度 大学院・博士（工学）学位論文

本年度は、3名の課程博士が誕生した。次にその論文概要を掲載してここに祝福したい。

論文題目：「プレキャスト鉄筋コンクリート分割壁の水平ずれ挙動に関する実験的研究」

五十嵐 賢 次

プレキャスト鉄筋コンクリート（以下、プレキャストとする。）部材の接合部は、接合境界面に作用する引張力・圧縮力・せん断力に対して、支圧・摩擦・シヤーキー・ダウエル鉄筋等の伝達要素が単独あるいは累加されて、応力伝達される。プレキャスト部材の応力伝達に関しては多くの既往研究があるが、一体打ちコンクリートと同等の剛性・耐力を有することを前提に設計が行われるため、その殆どはプレキャスト部材の接合部強度のみに着目した設計式が誘導されている。

本研究では、プレキャスト耐震壁の脆性破壊防止と施工合理化を図るために、柱と縁を切って鉛直接合部を省略したプレキャスト分割壁を提案している。そして水平ずれ変位を許容するプレキャスト水平接合部の設計手法を確立するための、水平ずれ変位挙動の解明を目的としている。

第1章では、本研究の目的と背景について述べ、プレキャスト工法の接合部強度に関する既往の研究を示し、本研究の位置付けを行っている。

第2章では、プレキャスト分割壁の抵抗機構の性状把握を目的とした1層試験体に水平載荷をした2回の実験について述べている。耐震壁試験体とは破壊性状・最大耐力・変形状を比較し、水平接合部のずれ変位が層間変位に占める割合を明らかにした。続いて水平接合部の鉛直接合筋量をパラメータにした実験を行い、破壊性状とせん断力ー層間変位関係に与える影響を明らかにした。

第3章では、プレキャスト分割壁の水平接合部における応力伝達の解明を目的とした水平接合部実験とその解析について述べている。せん断力ー水平ずれ変位関係は概ねバイリニア型で表すことができ、軸力と鉛直接合筋量がせん断耐力に与える影響を明らかにした。また鉛直接合筋について、コンクリートの反力パネを弾性支承とした梁モデルで有限要素法解析を行った。軸力のない試験体を対象にせん断力ーずれ変位関係と比較検証し、水平パネモデルとして提案している。

第4章では、プレキャスト分割壁をラーメン構造に組込んだ場合の挙動把握を目的とした3層試験体の水平載荷実験について述べている。連層耐震壁とは破壊性状・最大耐力・変形状を比較し、分割数と鉛直接合筋量が与える影響について明らかにしている。またプレキャスト分割壁を頭脚部に剛域と水平パネ持つ線材として扱い、これを平面ラーメンに組込んだ弾塑性解析を行った。実験値とは初期剛性・最大耐力・変形状を比較検証している。

第5章では、第2章から第4章で得られた研究成果を総括している。

論文題目：「建築用耐水性せっこう硬化体の開発」

熊 谷 慎 祐

近年、循環型社会の形成が模索されており、産業廃棄物の再資源化及び流通システムの構築が急務となっている。火力発電所において、大気汚染防止を目的として、排煙脱硫装置から大量に排出される排煙脱硫せっこうの有効利用が切望されている。

せっこう硬化体は、寸法安定性、防火性、断熱性、吸音性に優れるが、せっこう自体の強さ及び耐水性が乏しいことから、その用途は限られている。又、銑鉄製造時に副産する高炉スラグは、微粉碎し、その潜在水硬性を高めると、強さ性状に優れるセメント系又はせっこう硬化体を製造できる。

本研究では、耐水性を改善したせっこう硬化体の製造条件を見いだすために、 β 型半水せっこう（以下、せっこう

と略称)への鉱物質混和材, ポリマー混和剤及び鉱物質混和材とポリマー混和剤の併用混和, 並びに, 高性能減水剤の添加及び養生条件の検討を行っており, 3年の長期水中浸漬にも耐える耐水性せっこう硬化体を開発している。耐水性せっこう硬化体に軽量化, 繊維補強の手法を適用し, 耐水性せっこう系人工木材の製造に成功している。

本論文は, 「建築用耐水性せっこう硬化体の開発」と題し, 全5章から構成されている。

第1章では, 本研究の目的と範囲, 建築用耐水性せっこう硬化体開発の意義, 既往の研究, せっこうの種類と硬化機構並びに用語について述べ, 本研究の位置付けを行っている。

第2章では, 鉱物質混和材によるせっこう硬化体の耐水性改善, ポリマー混和剤によるせっこう硬化体の耐水性改善並びに鉱物質混和材とポリマー混和剤の併用混和によるせっこう硬化体の耐水性改善について検討し, その耐水性改善機構を解明している。

第3章では, せっこう硬化体の耐水性に及ぼす水せっこう比及び高性能減水剤の影響, 耐水性せっこう硬化体の耐水性に及ぼす高性能減水剤の添加効果, 耐水性せっこう硬化体の耐水性に及ぼす養生条件の影響並びに長期耐水性について検討し, 長期水中浸漬に耐える耐水性せっこう硬化体を開発している。

第4章では, 軽量耐水性せっこう硬化体の基礎性状及び繊維補強耐水性せっこう硬化体の性質を明らかにし, その結果を踏まえて耐水性せっこう系人工木材の開発を試み, その製造条件を提案している。

第5章は, 結論であり, 第2章から第4章までに得られた研究成果を総括している。

論文題目: 「産業廃棄物を用いた建築材料の開発」

崔 洛 運

近年, 日本では, 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」, 「容器包装リサイクル法」, 「家電リサイクル法」, 「食品リサイクル法」などのリサイクルに関する法律が施行され, 廃発泡ポリスチレン, 廃木材, もみ殻などの廃棄物の処理対策が急務となっている。発泡ポリスチレンは, 各種の産業分野で, その大部分がただ一回使用された後にかさ張った状態で廃棄され, 廃木材は, 間伐材, 工場残材, 家屋解体廃材などの廃棄物として, 又, もみ殻は, 籾米の大型の共同乾燥調整施設から大量に排出されており, それらの有効な処理対策が切望されている。

本研究では, 産業廃棄物である廃発泡ポリスチレン, 廃木材及びもみ殻の建築材料としての有効利用方法の開発を目的とし, 廃発泡ポリスチレンをスチレンに溶解した廃発泡ポリスチレン溶液を主成分とする結合材を用いたポリマーモルタル, 廃木材-廃発泡ポリスチレン複合体及びもみ殻-廃発泡ポリスチレン複合体の製造に成功している。更に, 廃発泡ポリスチレンをポリエステルモルタル用収縮低減剤として利用できることを見だし, その合理的な利用法を提案している。

第1章は, 序論として, 研究の目的と背景及び研究の範囲, 研究の意義, 既往の研究並びに用語について述べ, 本研究の位置付けを行っている。

第2章では, 廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタル用結合材の基礎的性質, 廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの初期性状に及ぼす廃発泡ポリスチレン溶液濃度, 架橋剤添加率, 開始剤及び促進剤の影響について検討している。

第3章では, 廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの強さ性状に及ぼすシランカップリング剤, 養生条件及び配合要因の影響並びにその耐久性について検討し, 廃発泡ポリスチレンを結合材成分とする新規なポリマーモルタルを開発している。

第4章では, 廃発泡ポリスチレンを収縮低減剤として用いたポリエステルモルタルの硬化収縮挙動及び強さ性状について検討し, 廃発泡ポリスチレンのポリエステルモルタル用収縮低減剤としての再利用を提案している。

第5章では, 常温硬化成形法による廃木材-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質, ホットプレス成形法による廃木材-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質に及ぼす成形条件及び配合要因の影響, 並びに, ホットプレス成形法によるもみ殻-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質に及ぼす配合要因の影響について検討し, 廃発泡ポリスチレン, 廃木材及びもみ殻を用いた建築用複合材料の製造法を提案している。

第6章は, 本論文の結論であり, 第2章から第5章までに得られた研究成果を総括している。

平成14年度 大学院修士論文テーマ一覧

本年度は、下記の修士論文が提出され、17名の修士（工学）が誕生した。

- ・ ミニラムサウンディング試験による地盤調査方法に関する研究 佐藤政清（指導教官 倉田光春）
- ・ 浴槽のまたぎやすさに関する人間工学的研究 荒川正人（指導教官 若井正一）
- ・ 自由音場における老人の純音聴力レベル特性に関する研究 石丸悠子（指導教官 濱田幸雄）
- ・ 障害者のためのスキー場に附設される各種施設に関する研究 岩根 敦（指導教官 佐藤 平）
- ・ 障害者のためのスポーツ施設に関する研究 及川 剛（指導教官 佐藤 平）
- ・ 地方都市における中心市街地の整備手法に関する研究
— 駐車場の現状分析からみた整備計画のための指針作成 — 岡崎敏也（指導教官 佐藤 平, 土方吉雄）
- ・ 入浴介助行為時の利用者を考慮に入れた老人保健施設の空間構成に関する研究 古田部晃弘（指導教官 佐藤 平）
- ・ 街路空間における探索歩行時の注視に関する研究
— 歩行経路選択と空間把握について — 佐野浩史（指導教官 三浦金作）
- ・ 円形鋼管材の純曲げによる局部座屈解析法に関する研究 渋川恵里奈（指導教官 倉田光春）
- ・ 量販店におけるPOSカウンター業務に関する人間工学的研究 嶋崎雄一（指導教官 若井正一）
- ・ 細長い平面形を有する建物の立体振動解析 清水 優（指導教官 千葉正裕）
- ・ 情報産業の発展と建築の変容及びその提案に関する研究 高井俊先（指導教官 倉田光春）
- ・ 硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さ性状に及ぼす促進養生条件の影響
高橋 忍（指導教官 出村克宣・大濱嘉彦）
- ・ ヴェネツィアの都市空間に関する研究
— 施設用途構成の経年変化と分布実態について — 田邊和義（指導教官 三浦金作）
- ・ 福島県公営住宅における地方特性と住戸内居住環境に関する研究 仲澤秀正（指導教官 佐藤 平, 松井壽則）
- ・ 限定空間内の着座行動に関する人間工学的研究 野崎弘之（指導教官 若井正一）
- ・ 静定構造手法による構造デザイン 茂木博之（指導教官 倉田光春）

学 術 論 文

- 熊谷慎祐, 大濱嘉彦, 「高耐水性せっこう硬化体の開発」, 材料, Vol.51, No. 10, Oct. 2002, pp.1129-1134.
- Y. Ohama and N. W. Choi, "Properties of Polymer Mortars Using Waste Expanded Polystyrene Solutions" Proceedings of the International Conference on Polymer Concretes, Mortars and Asphalts, University of Porto, Porto, Portugal, Oct. 2002, pp. 161-173.
- Y. Ohama, "Recent Progress in Development of Concrete-Polymer Composites in Japan" Proceeding of the Fifth International Symposium on the Cement and Concrete, Vol.1, Tongji University Press, Shanghai, China, Oct. 2002, pp.49-55.
- 崔 洛運, 大濱嘉彦, 「ホットプレス成形法による廃木材-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質に及ぼす成形条件の影響」, 日本建築学会構造系論文集, No. 561, Nov. 2002, pp.31-36.
- 崔 洛運, 大濱嘉彦, 「廃発泡ポリスチレン溶液系結合材を用いたポリマーモルタルの基礎的性質に及ぼす調査要因の影響」, コンクリート工学論文集, Vol. 14, No. 1, Jan. 2003, pp.35-41.
- 滝沢雄三, 佐藤平, 「生活関連施設の利用からみた中山間地域居住高齢者の生活圏に関する研究」, 介護福祉学会論文集, 2002年10月
- 西島衛治, 関沢勝一, 野村 欽, 佐藤 平, 「自閉症児の教育方法に対応した教育空間の分化傾向と物理的空間の構造化への動向」, 日本建築学会計画系論文集, No. 564, Feb. 2003, pp. 165-172

■第45回日本大学工学部学術研究報告会 開催日：平成14年12月20日，会場：日本大学工学部（131，132，5521教室）

[建築学部・特別講演]

・「中国建築逍遙」

狩野 勝重

[建築部会・研究発表]

・「学校建築の今・これから」—日本建築学会東北支部建築計画部会主催 見学・研究会報告—

○市岡 綾子・若井 正一

・インテリアの仕事に関する基礎的研究—郡山市におけるインテリア販売店の実態等について—

○秋吉 崇博・若井 正一

・公共空間における待ち行列に関する人間工学的研究—公共交通機関に乗車する場合の待ち行列について—

○大谷 和泉・若井 正一

・室内構成要素としての身体尺度に関する研究—建築設計資料集成等における姿勢分類について—

○清 利幸・増子 順一・若井 正一

・オゾン発生源からのオゾン発生と室内濃度予測に関する研究

○武田 康・若井 正一・八町 雅康・野崎 淳夫（東北文化学園大）

・街並み構成材料の地域特性に関する調査研究

—その4 業務中心地区における外装材料の採用動向・東日本各街区とロンドン市内著名建築物の比較速報—

○土方 吉雄・岩崎 博

・高層共同住宅居住者のS I住宅に対する意識評価—郡山市をケーススタディとして—

○新関 智尋・土方 吉雄・三浦 金作

・街路空間における探索歩行時の注視に関する研究—探索歩行時の注視対象について—

○佐野 浩史・三浦 金作・土方 吉雄

・水都・ヴェネツィアの都市空間に関する研究—観光施設圏域内の商業集積量について—

○田邊 和義・三浦 金作・土方 吉雄

・地方都市における中心市街地の整備手法に関する研究

—その5 東北地方都市の中心市街地活性化計画における駐車場整備計画の実態—

○岡崎 敏也・土方 吉雄・三浦 金作

・地方都市における駅前広場整備手法に関する研究—中心市街地活性化計画による駅前広場整備計画について—

○土田 真一・土方 吉雄・三浦 金作

・スキー場における障害者の利用特性に関する研究（その4）—スキー場における補装具の保管場所について—

○岩根 敦・佐藤 平

・障害者のためのスポーツ施設に関する研究

—1979年度と2001年度の社会体育施設におけるバリアフリー計画の比較—

○及川 剛・佐藤 平

・老人保健施設の空間構成に関する研究—入浴における脱衣場空間の利用実態—

○古田部晃弘・佐藤 平

・老人保健施設の空間構成に関する研究

—機能訓練室および機能訓練における実態把握と問題点について—

○澤田 博人・佐藤 平

・ひとにやさしいまちづくりに関する既存施設の実態調査

—福島県K町と福島県K市における既存施設の実態調査—

○半沢 一寛・佐藤 平

・ひとにやさしいまちづくりに関する研究

—車イス障がい者の生活の背景と日常生活行動におけるまちづくりの課題—

○中澤 勤・佐藤 平

・住民参加のまちづくりに関する研究—三春町景観整備における住民意識—

○平島 大輔・佐藤 平・有賀 保二

・既存戸建住宅団地の更新整備のあり方に関する調査研究—団地の現状と居住者の意向について—

○内田 崇・松井 壽則

・福島県公営住宅における住戸内居住環境に関する研究

—会津地方2団地における居住者属性と住戸内居住環境について—

○仲澤 秀正・松井 壽則・佐藤 篤史（郡山女子大）・佐藤 平

・老人保健施設の発生騒音に関する実測調査

○石丸 悠子・濱田 幸雄

・細長い平面形を有する建物の立体振動解析—その1 固有値解析—

○大岡美紗恵・倉田 光春・千葉 正裕・浅里 和茂・日比野 巧・清水 優

- ・細長い平面形を有する建物の立体振動解析 —その2 変位応答解析—
○清水 優・倉田 光春・千葉 正裕・浅里 和茂・日比野 巧・大岡美紗恵
- ・円形鋼管材の局部座屈挙動に関する研究 —その1 FEM解析による形状変形モード—
○内藤 正純・倉田 光春・野内 英治
- ・円形鋼管材の局部座屈挙動に関する研究 —その2 純曲げによる形状変形モードの推定と解析手法—
○渋谷恵里奈・倉田 光春・野内 英治
- ・静定構造手法による構造デザイン —デザイン手法概要およびマトリクス法による静定構造解析—
○茂木 博之・倉田 光春・野内 英治
- ・情報社会及び産業の発展に伴う建築へのアプローチに関する調査と提案
○高井 俊先・倉田 光春・野内 英治
- ・K-NET利用による福島県地域の地震動特性に関する研究
○押田 渉・倉田 光春・野内 英治
- ・中間層免震建物に関する研究
○横山 美香・倉田 光春・野内 英治
- ・新しい設計手法の基礎的研究 —経験の相違による思考変化—
○小田切広和・倉田 光春・野内 英治
- ・水質浄化用ポーラスコンクリートブロックの開発
○出村 克宣・山崎 賢一 (岩城ブロック工業㈱)
- ・亜硝酸型ハイドロカルマイト混入ポリマーセメントモルタルの性質に及ぼす亜硝酸型ハイドロカルマイト置換率の影響
○大濱 嘉彦・宮本 勇一
- ・亜硝酸型ハイドロカルマイト混入ポリマーセメントモルタルの性質に及ぼす細骨材の種類の影響
○宮本 勇一・大濱 嘉彦
- ・高耐水性せっこう硬化体の性質
○熊谷 慎祐・大濱 嘉彦
- ・ビニロン繊維補強軽量せっこう複合体を用いた耐水性せっこう系人工木材の開発
○宇秋 哲也・熊谷 慎祐・大濱 嘉彦
- ・廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの耐久性
○崔 洛運・大濱 嘉彦
- ・廃発泡ポリスチレン溶液を用いたポリマーモルタルの性質に及ぼす架橋剤添加率及び結合材量の影響
○諸岡 淳史・崔 洛運・大濱 嘉彦
- ・ホットプレス成形法によるもみ殻-廃発泡ポリスチレン複合体の基礎的性質に及ぼす配合要因の影響
○森 一平・崔 洛運・大濱 嘉彦
- ・硬化剤無添加エポキシ樹脂混入ポリマーセメントモルタルの強さに与える養生条件の影響
○高橋 忍・大濱 嘉彦・出村 克宣
- ・再乳化形粉末樹脂混入ポリマーセメントモルタルの基礎的性質
○松本 真吾・大濱 嘉彦
- [教育に関する部会・研究発表 (抜粋)]
- ・工学部におけるIT戦略構想について —ITを活用した教育品質の向上—
○浅里 和茂・八町 雅康・藤本 洋 (日大工・情報)・田中 宏卓 (日大工・情報)
乾 成里 (日大工・電気電子)・山川 克広 (日大工・情報技術センター)
- ・建築構造系授業におけるコンテンツ事例 —力学関係について—
○千葉 正裕・浅里 和茂・八町 雅康
- ・建築学科における建築CAD教育
○土方 吉雄
- ・高校研究8 新しい時代の工業高校 —総合科学技術高校基本構想—
○永田 進 (島田工高)

■日本インテリア学会第14回大会研究発表 開催日：平成14年10月14日、会場：武蔵野美術大学

- ・官庁型オフィスの窓際座席から見たVDT作業環境に関する検討
その1 地方官庁オフィスにおけるVDT作業環境の執務実態
○若井 正一
- ・官庁型オフィスの窓際座席から見たVDT作業環境に関する検討
その2 ディスプレイの見やすさについての評価実験
○嶋崎 雄一・若井 正一
- ・小学校の教室用机に関する使用実態
○市岡 綾子・若井 正一
- ・自然素材を利用した学校用家具の提案
○若林 克友・市岡 綾子・若井 正一

■廃棄物のコンクリート材料への再資源化に関するシンポジウム 開催日：平成14年9月6日 場所：日本大学会館

- ・木質系廃材混入耐水性せっこう硬化体の基礎的性質
○熊谷 慎祐・大濱 嘉彦
- ・廃発泡ポリスチレン溶液を結合材として用いた複合材料の開発
○崔 洛運・大濱 嘉彦

■若井教授は、福島県立郡山高等技術専門学校より郡山地域職業能力開発推進協議会総合検討委員を委嘱された。(7月1日付)

■土方助教授は、7月16日、船引町より船引町中心市街地活性化基本計画策定委員会委員及び幹事会委員を委嘱された。

■大濱教授は、8月8日から11日まで、日本大学工学部において、韓国の国立全北大学校工科大学と第10回国際学術交流会を開催され、両校間の親睦を深めた。

■土方研究室は、船引町より船引町中心市街地活性化ワークショップを委託され8月29日から10月24日までに5回のワークショップを開催した(トータルコーディネーター：土方助教授、コーディネーター：安福研究生)。

■熊谷慎祐及び崔 洛運大学院生(D3)は、9月6日に、日本大学会館で開催された、(社)日本コンクリート工学協会主催の「廃棄物のコンクリート材料への再資源化に関するシンポジウム」に出席され、熊谷大学院生は、「木質系廃材混入耐水性セッコウ硬化体の基礎的性質」、崔大学院生は、「廃発泡ポリスチレン溶液を結合材として用いた複合材料の開発」と題する論文を発表された。

■大濱教授は、9月9日から12日まで、スペインのマドリッドで開催されたRILEM(国際材料構造試験研究機関連合)年次総会に、National Delegate(日本代表)、Technical Activities Committee委員及びTDP技術委員会委員長として出席された。本年次総会において、日本人として初めてBureau Member(本部事務局役員)に選出された。

■大濱教授は、9月12日から16日まで、イタリアのローマで開催されたRILEM TC-TDP/TC-ECM MeetingにTDP技術委員会委員長として出席された。

■若井教授は、福島県県南建設事務所から県南地方生活圏都市計画マスタープランおよび都市計画区域マスタープラン懇談会の会長を委嘱された。(9月27日付)

■土方助教授は、10月2日、郡山商工会議所より郡山まちづくり推進協議会・事業運営委員会委員を委嘱された。

■大濱教授は、10月8日から12日まで、ポルトガルのポルトで開催された International Conference on Polymer Concretes, Mortars and Asphalts に出席され、"Properties of Polymer Mortars Using Waste Expanded Polystyrene Solutions"と題して講演された。

■大濱教授は、10月17日に、仙台で開催された、(社)日本コンクリート工学協会東北支部主催の「循環型社会におけるコンクリート材料の役割」に関するシンポジウムに出席され、「(社)日本コンクリート工学協会本部での活動の現状と展望」と題して講演された。

教室ニュース

■大濱教授は、10月18日に、いわきで開催された、(財)福島県産業振興センター主催の「新技術フォーラム 2002 in いわき」に出席し、「産業廃棄物再資源化とエコタウン構想」と題して講演された。

■若井教授は、日本コンストラクション・マネジメント協会東北支部の設立総会において副支部長に選任された。(10月25日、於、仙台)

■大濱教授は、10月27日から31日まで、中国の上海で開催されたFifth International Symposium on Cement and Concrete (5th ISCC) に出席され、"Recent Progress in Development of Concrete-Polymer Composites in Japan"と題して基調講演をされた。

■土方助教授は、10月29日、郡山商工会議所よりタウンモビリティ社会実験事業実行委員会の副委員長に選出された。

■若井教授は、白河市より白河市公

共事業再評価委員会の委員長に選任された。(11月6日付)

■土方助教授は、11月19日、福島県より21世紀の阿武隈地域を考える会委員にされた。

■大濱教授は、12月3日に、2003年10月13日から15日にポーランドのワルシャワで開催される The Seventh International Symposium on Brittle Matrix Composites の International Advisory Committeeの委員に任命された。

■土方助教授は、12月6日、船引町より船引町建築賞選考委員会の委員長に選任された。

■土方助教授は、2月13日、郡山市より郡山市屋外広告物審議会の会長に選任された。

■土方助教授は、12月20日、川俣町より川俣町住宅マスタープラン策定委員会の委員長に選任された。

■土方助教授と岡崎敏也大学院生(M2)は、12月20日、福島県駐車場協会郡山支部主催講演会において、「郡山市における中心市街地活性化と駐車場整備」と題して講演した。

■大濱教授は、12月25日に、2004年6月20日から23日に韓国ソウルで開催される Fourth International Conference on Concrete under Severe Conditions の International Advisory Committee の委員に任命された。

■若井教授は、郡山地域テクノポリス推進機構より「ユニバーサルデザインのものづくり研究会」の委員長を委嘱され、その成果報告書が答申された。(1月27日付)

■若井教授らが執筆していた日本建築学会編の建築設計資料集成拡張編「人間」(丸善出版)は、1月31日に発刊された。なお、増子順一、清利幸、野崎弘之大学院生らが執筆陣に加わった。

■岩崎教授は、建築知識2003年2月号に「産出地別壁土の諸性質と空気汚染物質の除去効果」について寄稿発表された。

■人事：高橋鷹志大学院非常勤講師は、本学総合科学研究所教授に任命された。(10月1日付)

桜門建築会創立80周年記念事業報告

統一テーマ「**新世紀にはばたく桜建会**」 東北会場：開催日 11月14日（木） 於、日本大学工学部

日本大学建築系卒業生のOB・OG組織である桜門建築会が創立されて80周年になることを記念して、全国4会場（東京、近畿、東北、九州）で記念事業が開催された。東北地区の開催は、本学部の50周年記念館を会場として11月14日に開催された。当日は、建築家、**山本理顕氏**による記念講演会「建築教育を考える」が開催された。講演会終了後、引き続いて同氏を委員長に4名の審査員で「未来のキャンパスを考える—新しい講義棟の提案」と題するキャンパス・リニューアルコンペの公開審査会が開催された。

参加者は、200名を超える盛況であったが、その審査風景と審査結果の概要を下記に掲載する。

山本理顕氏は「建築教育を考える」と題して、新たな大学施設のあり方を提案された「埼玉県立大学」「公立はこだて未来大学」の設計プロセスを紹介しながら、建築に携わる者にとって「あらゆる状況における様々なコミュニケーションをいかに成立させるか」ということの重要性を講演された。

引き続き、山本理顕氏を審査委員長として、夏休みから10月末までの期間に学科内で実施したキャンパスリニューアルコンペ「未来のキャンパスを考える—新しい講義棟の提案—」の公開審査を行った。応募作品全9作品の出展者自身によるプレゼンテーションや、審査委員長の山本氏と、建築設計演習の非常勤講師をお願いしている3名の建築家、清水公夫氏、近藤道男氏、及び富松太基氏からなる総勢4名の審査員からの鋭い質疑への対応など、出展した学生諸君はもとより、来場の学生諸君も、身をもってダイレクトに建築設計に関する多くのことを学んだものと思われる。また、最優秀賞作品を決断するという重みのある空気の一瞬の流れを目の当たりに体験したことは、多くの来場者にとってたいへん有意義な機会となった。

【キャンパスリニューアルコンペ審査結果・作品応募者】

（入賞者には桜門建築会から賞状及び副賞が授与された。）

最優秀賞・遊馬 和宏・阿部 秀一（以上学部4年生）

優秀賞・金丸 直才（学部4年生）

（2作品）・仲川 博幸・中澤 毅（以上学部3年生）

佳作・石井 崇治・長谷川純子（以上学部3年生）

（2作品）・増子 順一・清 利幸（以上大学院生）

安孫子由佳・伊藤 和芳・竹股 哉子

（以上学部4年生）

上記以外の作品応募者（4作品）

・大塚 耕平・加藤 匠・川口 大介・小山 元輝・齋藤 優・佐藤 良恵

別所 知彦（以上学部2年生）・石井 健雄・井田 吉彦・市橋 悠・

菊池 弘悦・森村 雄一・山崎 達郎・渡辺 祐斗（以上学部1年生）

・鎌倉 公宏（学部4年生）

・嶋崎 雄一（大学院生）・浅沼 美雪・鈴木 崇・高梨 秀樹・矢部 達也

（以上学部3年生）

・榎原 奈・太田 浩市・木下 裕介・伏見 聡・松村 健史・山口かおり

山中 英邦・渡邊 智之（以上学部3年生）

審査委員長 山本 理顕（㈱山本理顕建築工房）

審査員 清水 公夫（㈱清水公夫研究所）

近藤 道男（㈨近藤道男建築設計室）

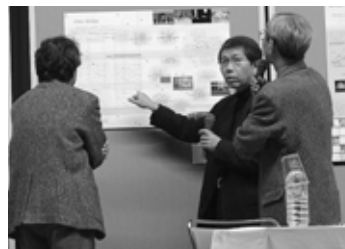
富松 太基（㈱日本設計）



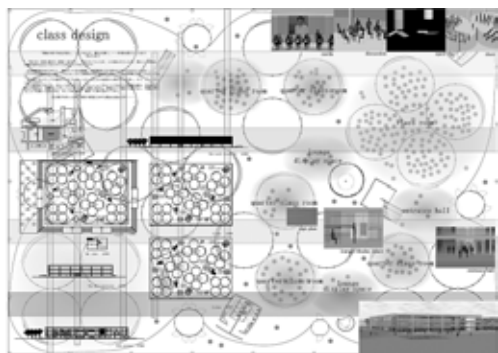
公開審査会の風景



審査中の山本理顕氏



最優秀賞作品の講評風景



最優秀賞作品「class design」



審査に聞き入る来場者